

松江城出土の堀尾期の遺物

【本丸】

■ 富田城跡出土瓦の同汜瓦の出土（城山公園管理事務所西側）〔⑥〕（平成8年調査）

検出した土坑の底面から出土した宝珠文軒平瓦は、堀尾氏が出雲国入部の際に居城とした広瀬の富田城跡の千畳平から出土した同種の瓦と同汜瓦であることが判明した。



写真 3-8 城山公園事務所西側の長方形土坑



写真 3-9 宝珠文軒平瓦（同汜瓦）

（上：松江城本丸出土、下：富田城跡千畳平出

【二之丸】

■ 南櫓跡、中櫓跡、太鼓櫓跡〔⑧、⑨、⑩〕（平成7～8年調査）

各櫓の礎石や抜き取り痕、石積基壇などを検出した。また、鯨瓦片や分銅文の刻印がある軒平瓦が出土したほか、中櫓跡西方の土坑からは堀尾家家紋の分銅文を瓦当文様とする棟込瓦が出土した。



写真 3-10 南櫓跡 遺構検出状況



写真 3-11 太鼓櫓跡 遺構検出状況



写真 3-12 中櫓跡 遺構検出状況



写真 3-13 中櫓跡西方土坑出土の棟込

【外曲輪（二之丸下ノ段）】

■ 米蔵跡〔18〕（昭和 47～49 年調査）

⌒字形の石積基壇からなる 2 棟（南蔵跡、東蔵跡）の礎石建物を検出し、方形や三角形の壁摺、分銅文の印を押した丸瓦などが出土した。



写真 3-17 米蔵跡石積基壇（左：南蔵跡、右：東蔵



写真 3-18 南蔵跡の礎石列



写真 3-19 米蔵跡出土の壁摺



写真 3-20 米蔵跡出土の丸瓦（分銅文刻